

「花輪ばやし」の見どころの一つ、豪華絢爛な全屋台を背景に全町で円陣を組み行われる、独特の手締め式「サンサ」。「サンサンサントセ、オササノサントセ、ヨイヨイヨーイ」と、三度繰り返し唱えます。



【町境ちょうざかい】屋台巡行時、屋台は町境を越えて他町内を通行するため、隣接する町内との境界において通行のための交渉と挨拶を行います。

10町内の豪華絢爛な屋台が、囃子を演奏しながら地区内を運行します。

花輪ばやしは、平成26年に「花輪祭の屋台行事」として、国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年には全国32の行事と共に「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

2件のユネスコ無形文化遺産を有する本市は、国内でも例を見ない地域となります。



囃子の構成は、中太鼓、打太鼓、笛、三味線、摺り鉦です。

花輪ばやし

ユネスコ無形文化遺産
国重要無形民俗文化財

花輪ばやしの名称で親しまれる「花輪祭の屋台行事」は、土地の守り神「産土神さん」として古くから地域の信仰を集める幸福荷神社と、花輪神明社の合同例大祭において、8月19日から20日まで行われます。

舞楽の起源は、大日堂(大日霊貴神社)が養老2年(718)に再建され、尊像の開眼供養が行われたとき、都から下向した楽人により里人に伝えられたものといわれています。

大里、小豆沢、谷内、長嶺の4地区の人々によって1300年余りの間伝承されてきました。



大日霊貴神社

大日堂舞楽は、1月2日に大日霊貴神社の養老例祭で奉納される伝統的な舞楽です。古式豊かに奉納される舞楽は、約1300年にわたり地区の能衆(舞い手)によって伝承されてきました。昭和51年に国の重要無形民俗文化財に指定され、また、平成21年にはユネスコ無形文化遺産にも登録され、世界の大日堂舞楽として注目されています。



【鳥舞 とりまい】ダンプリ長者が飼育していた鳥の舞といわれ、子ども3人が雄、雌、雛の鳥甲を付け、笛・太鼓の囃子に合わせて舞います。



【権現舞 ごんげんまい】継体天皇の第五皇子、五の宮権現の舞といわれ、1人が獅子頭をかぶり、子どもが尾を持ち、笛、太鼓に合わせて舞います。

大日堂舞楽

ユネスコ無形文化遺産
国重要無形民俗文化財

伝統を受け継ぐまち